

令和5年度ひろしま自然保育推進事業 活動報告書

○活動報告書は、HPで公表しますので、公開可能な内容としてください。
○データのサイズは、写真を含め、8M以内に収め、ワード文書にて提出してください。
○こちらの報告書フォームに沿って全て記入してください。

令和 7年 3月 21日

広島市東区牛田新町4丁目1-1
学校法人比治山学園
理事長 木谷 健
比治山大学短期大学部附属幼稚園

1 活動報告

【4月～6月】(春季)

- ・カブトムシ、スズムシの飼育
- ・アサガオ種まき
- ・タマネギ・ジャガイモ収穫
- ・畑の草抜き
- ・夏野菜の苗植え、収穫
- ・ビオトープ観察会
- ・サツマイモ苗植え

【7月～9月】(夏季)

- ・夏野菜の収穫
- ・アサガオなどの色水づくり
- ・ビオトープ観察会

【10月～12月】(秋季)

- ・サツマイモ収穫
- ・遠足
- ・どんぐり拾い
- ・タマネギ苗植え

【1月～3月】(冬季)

- ・雪遊び
- ・氷づくり
- ・ジャガイモ種イモ植え

活動報告（詳細）

1シーズンにつき最も印象的だった活動のエピソード1つご記入してください。

エピソードは、活動プロセス、保育者の関わり、子どもの育ちの見取りを端的にお願いします。

写真は基本1枚です。

【4月～6月】

（写真）



カラス除けのカラス

自分たちで、プランターに土入れをし、苗を植えたきゅうり。肥料や水やりをし、生長や収穫を楽しむにして観察しては、気づいたことを嬉しそうに教師に知らせたり、友だちと報告しあったりする姿があった。

ある日のこと、カラスが収穫間近のきゅうりを咥えて持ち去る事件が発生する。園庭には食べられた残がい。気が付いた子どもたちは、なぜ、とられてしまったのかを口々に話し、悔しがる。

クラスの集いでこの事件を取り上げて、カラス対策を話し合う。いろんな意見や考えが飛び出し、思い思いに自分の思う罨や、カラス除けのキラキラした飾り、段ボールの見張り小屋などを製作、設置していった。“自分たちのキュウリは、自分たちで守る”と、大切に育てたい思い、栽培物への関心の高まりを感じた。

【7月～9月】

（写真）



園に植えてある植物を使つての色水遊び。

アサガオ・マリーゴールド、つゆ草など、色の濃い花を採つては、すりこ木ですりつぶす作業を繰り返している。友だちと情報交換しては、自分の思う色になるよう花を集め、違う色の色水と混色したり、水の量を変えたりしながら、たくさんの色水を並べて楽しんでいた。いろいろな草花、木の葉で試す中、ミカンやレモンの葉をちぎると、いい匂いがすることに気づく。すりこ木でつぶし、花の色水と合わせて、いい匂いのする色水を作り始めた。今度は、レモンの実や皮を使って、ジュースを作ることを提案してみる。潰した実に、紫色のアサガオの色水を入れてみると、ピンク寄りに変化した。驚き！「どうやってやったん？」「僕もやらせて」いろいろな気づきを友だちと共有しながら、遊ぶ中で、新たな発見に出会い、自分が発見した喜びや自然現象の不思議さ、変化の面白さを感じていた。

【10月～12月】

(写真)



園庭の横にあるつつじの森。フェンスに囲われて普段は、あまり足を踏み入れないところだが、栗の実がたくさん落ちていることで、興味を持った子どもたちと一緒に入ってみる。

栗拾いに夢中になっていた子どもたちだったが、トンネルのようなつつじの通り道を探検し始めた。薄暗く、湿ったその道には、いろんなキノコや化石のようになったカタツムリの殻など、少し恐ろしくて、興味惹かれるものがあった。「これ、絶対、毒キノコじゃ!」「これ、昔の石じゃ!」などと言っては、想像力を膨らませて、嘘ごとの話を作って遊んだり、図鑑や虫眼鏡で、収集したものを調べたりしていた。環境的な要素やあまり目にする事のなかったものが、子どもたちの探究心や好奇心を掻き立てていた。以来、この森の探検やキノコ探しは、多くの友だちに広がっていった。

【1月～3月】

(写真)



登園するとすぐにビオトープに直行する子どもも少なくない。生き物の観察や落ち葉の回収以外に、目的は、ビオトープに張った氷である。

2月。少し厚めの氷が張った日。子どもたちの、「先生来て!」と声があがる。「つららができとる!」地域的に、ほとんど見ることはない。ビオトープそばの木の葉や小さな枝の先がら、小さなつららが伸び、縁石は、氷で覆われている。「たぶん、(ビオトープに水を送る)ホースの水が飛び散ってできたんよ」という子もいた。水を入れたタライに集めた氷を入れて「これで、水が冷たくなって明日も氷ができると思う」と、期待をする姿もあった。

自分なりの知識や情報から、想像力を働かせて、自分なりの答えを出したり予測したりしている。冬ならではの自然事象にふれ、氷ができる仕組みや水の性質に、関心を持つ機会となった。

2 その他（自然体験活動の実施における今年度のプロセス）※記入必須

- ・ 職員の資質向上について

○令和6年度中国地区私立幼稚園教育研究会（岡山大会）に参加。『ネイチャーゲームで感性を拓こう』という分科会にて、ネイチャーゲームインストラクター・勝間 光洋先生の講習を受ける。

「センス・オブ・ワンダー」の理念を元に、まずは、教師自身が直接的な自然体験をすることによって、自然への気づきや感性を高め、子どもたちの直接体験を大切にしていこうということを学んだ。

○6月・9月のビオトープ観察会。

日頃から気になっている生き物や植物疑問、園の果樹の栽培・選定方法など、気になっていることを伝え、専門家の先生方の考えをうかがったり、アドバイスをいただいたりした。学んだことは、職員で共有して、保育に生かせるようにした。

- ・ 地域との関わりについて

○園庭の整備をして下さる業者の方、森林組合の方の助言や協力をいただき、現業員さんと

よりよい安全な森の整備や、畑づくり、害獣対策をしている。今年度は、裏園庭に、小鳥の餌場をつくった。

- ・ 保護者との関わりについて

○6月の親子登園日や、10月11月の保育参加では、オリエンテーリング、泥んこ遊び、虫探し、

木の実や落ち葉を使った遊びなど、そのとき、子どもたちが興味のある遊びを一緒にできるように場づくりをし、自然にふれて遊ぶ楽しさを共有できるようにしている。

○幼稚園で収穫した野菜や果物を、どのように子どもたちと収穫し、食べたのかを、ICTによって

知らせている。園から持ち帰った収穫物は、家庭で調理し、積極的に弁当のおかずにされる保護者が多い。また、自然とのかかわりについて、毎月、具体的なエピソードを、学年ごとに配信している。

*より詳しく活動をアピールしたい施設は、ホームページやSNSのURLをご記入ください。

URL	https://www.hijiyama-u-youchien.jp/
-----	---